

令和2年度
第2回留萌市公共施設整備検討会議
議事概要

- 日時／令和3年1月26日（火）15:00～17:00
- 場所／留萌市役所3階 3・4号会議室
- 出席者／委員 炭谷座長、向井副座長、笠井委員、小沼委員、坂本委員
堀口委員、高橋委員、大和委員、遠藤委員、伊端委員、大館委員、
串橋委員、谷委員 ※順不同
- オブザーバー 赤坂部長[留萌振興局]、安田課長、小林課長
- 事務局 海野課長、林係長、高橋主任
- 運営支援 (株)ドーコン 山本、浦島、和田、佐藤

1. 開会

2. 座長挨拶

- －炭谷座長よりあいさつ。

3. 全体会議の振り返り

(1) 第1回検討会議のグループ別意見交換における主な論点と整理課題のまとめ

- －事務局より、第1回検討会議のグループ別意見交換における主な論点と整理課題のまとめ(資料1)について説明。

－質疑・意見確認

(○○委員)

- ・整備を想定している公共施設の範囲を教えて欲しい、また、検討会議の今後のスケジュールを教えて欲しい。

(事務局)

- ・施設の範囲は、社会教育施設+αの機能を想定している。また、検討会議は今年度にあと1回と、できれば市民ワークショップを開催したい。次年度に5回+状況を見て視察を検討している。

4. 資料説明

(1) 留萌市公共施設整備検討会議設置要綱の改正について（資料2-1、2-2）

- －事務局より、留萌市公共施設整備検討会議設置要綱の改正（資料2-1、2-2）について説明。

－質疑・意見確認

特になし。

- －事務局原案どおり、承認

(2) 新たな公共施設の整備検討にあたって（資料3）

- －事務局より、新たな公共施設の整備検討にあたって（資料3）について説明。

一 質疑・意見確認

特になし。

(3) 候補地検討に係る資料（資料4）

一 事務局より、候補地検討に係る資料（資料4）について説明。

一 質疑・意見確認

（〇〇委員）

- ・ 駅周辺地区に関連して、JR 留萌線に係る JR 北海道との現在の協議状況について教えて欲しい。また、候補地周辺の道営住宅を検討エリアに含めるかなどの考え方を教えて欲しい。

（事務局）

- ・ JR 北海道では、留萌線を「JR 北海道単独での維持困難な線区」のうち、廃線により代替交通への転換を図っていく赤線区に位置づけている。沿線自治体は、利用者数や施設の老朽化状況を勘案して、留萌～沼田間は廃線やむなし、沼田～深川間は存続できないかという方向で協議を行っているが、JR 北海道は全線廃止を前提として協議を進めたいとのことで、現在も継続協議中である。
- ・ 道営住宅については、現時点でエリアに含めることは検討していない。

（〇〇委員）

- ・ 駅周辺地区への立地誘導を進めていくには、廃線などに係るスケジュール感は重要だ。廃線議論の結論が出る見通しがあれば教えて欲しい。

（事務局）

- ・ 廃線議論は期限が決まっていない。但し、JR 北海道では線区の課題解決や見直しを図ることを前提として令和5年度まで国から支援を受けている。このため、令和3年あるいは4年度中に方向性は出るものと思われるが、明確ではない。

（〇〇委員）

- ・ 前回の検討会議で意見として出ていなかった旧生協跡を候補地に入れた理由を教えて欲しい。

（事務局）

- ・ 市が都市計画マスタープランにおいて設定する「にぎわい復活ゾーン」に隣接する土地であり、ある程度まとまった面積を有することから比較対象の1つとした。現時点で取得予定となっている訳ではない。

（〇〇委員）

- ・ 旧留萌高校は取得できる可能性はあるのか。
- ・ 旧留萌高校の校舎・体育館・グラウンドを活用した場合と、新規施設整備を行う場合のコスト比較は行っているのか。
- ・ 図書館は耐用年数を超えているのか。また、図書館敷地を活用する場合は、現施設を壊して新施設に合築するのか。
- ・ 副港地域の利用は検討しないのか。
- ・ 駅前周辺地区への立地は、JR 留萌線の廃線が前提となっているが、廃線がいつになるのか分からない状況で、計画づくりを進めていけるのか。

(事務局)

- ・旧留萌高校の取得については、過去に譲渡金額として数億円の提示を受けたことはあるが、用地面での処理の問題もあり取得には至らなかった経緯はある。
- ・旧留萌高校の施設活用と新規施設整備のコスト比較は現時点では検討していない。
- ・図書館は平成元年に建築されており耐用年数を超えていない。但し、図書館機能を含めた社会教育施設を複合化という観点から候補地のひとつとしている。
- ・副港地域は、地盤等状況を踏まえて、現状では検討対象としてない。
- ・現時点で廃線時期は決定しておらず、沿線自治体では廃止・一部存続について協議中である。しかしながら、市では鉄路を維持することは困難ということは判断しており、将来を見据えた議論を進めていく必要があると考えている。

(〇〇委員)

- ・副港地域の活用について、詳しく教えて欲しい。

(事務局)

- ・副港地域は、港湾区域であり、港湾区域からの変更手続きが必要となる。現段階では将来の港湾用地として活用することを想定していることから、検討対象としていない。

(〇〇委員)

- ・副港地域は、過去に他の用途で使用されていた実績もあることから、用途変更も含めて検討して欲しい。

(事務局)

- ・今後検討し、課題などを整理していく。

(〇〇委員)

- ・旧留萌高校はそのまま使用すれば、新規整備よりもコストは少なくて済むのではないか。

(事務局)

- ・コストのみならず、立地場所として適しているかという点からもご検討いただきたい。

(4) 駅周辺地区への立地について (資料5)

－事務局より、駅周辺地区への立地について (資料5) について説明。

－質疑・意見確認

(〇〇委員)

- ・ここまでの資料説明で市による駅前周辺地区への誘導を感じる。立地場所はまちの中心がどこであるかを踏まえて、検討すべきではないか。また、都市マスタープランの説明もあったが、約30年前に策定されたことから、あまり参考にならないと感じる。

(〇〇委員)

- ・検討会議の設置要綱の目的に「駅周辺地区への立地誘導を前提に」と記載されていることから、駅周辺地区を前提に考えることに問題はないと考える。

(炭谷座長)

- ・設置要綱では、駅周辺地区を前提としているが、委員から別の立地場所についての意見があったことから、それも含めて議論していきたいと考えている。

(〇〇委員)

- ・座長の見解のように議論の中で変更が生じることは良いのではないか。

5. グループ協議

(1) 新たな公共施設の立地場所の方向性について

－3 グループに分かれて意見交換を実施。

－意見交換の結果報告

①A グループ

－〇〇委員より主な意見として以下を報告。

- ・立地場所は、施設の主な利用者層を考慮して考えた方が良い。学生や若者の利用が多くなると考えられるので、駅前周辺地区を前提とするならば、将来の学校から歩いて行けるような場所が良いのではないかと。
- ・駅前周辺地区とするならば、市営住宅、学校、幼稚園や市役所などの誘導もセットで考えていくべきでないか。
- ・まちの中心について、若者の意見では、旧生協や旧るもいプラザのあたりではないかと考えている。これを考えると、旧生協や旧るもいプラザ周辺、現スポーツセンター・文化センター周辺、駅前周辺地区にそれぞれに、文化施設や行政施設、スポーツ施設を配置し、これらに囲まれた区域に住宅、子育て施設などを誘導する方策が良いのではないかと。
- ・道の駅るもいを拠点として、東岸地区、副港地区に市役所や文化施設、スポーツ施設を集約できないか。
- ・コロナ禍において、ワークショップは参加が難しいことも想定されるので、様々な団体へのアンケート調査等を活用していても良いのではないかと。

②B グループ

－〇〇委員より主な意見として以下を報告。

- ・駅前周辺地区は、まちの中心ではないと思う。社会教育施設は人を誘導する施設なので駅前周辺地区はなじまないのではないかと。
- ・まちの中心は、神社下～ほっともっと辺りの国道周辺と考えるので、その周辺で複数案を検討すべきではないかと。
- ・津波・洪水についても、どの程度の確率で、どのような被害となるのか根拠を示すべきではないかと。
- ・駅周辺地区自体が悪いわけではないが、現文化センターに機能を残しつつ旧留萌高校を活用する方法、市営球場を活用する方法なども考えても良いのではないかと。
- ・駅前周辺地区は、避難場所としては問題があるが、交通結節点となることから、立地を誘導しても良いのではないかと。
- ・必要な機能として、500席程度のホールは必要だが、公民館については機能を縮小しても良いのではないかと。

③C グループ

－〇〇委員より主な意見として以下を報告。

- ・駅前周辺地区への立地を前提で検討していくことで一致した。メリット・デメリットを考慮した際に駅周辺地区の代替候補が出てこない。
- ・社会教育施設を集約する際の課題は、道路アクセスである。駅西側からの道路アクセスが改善されると、施設にバスターミナルや駐車場などが整備された場合、利便性が非常に高いものとなる。
- ・現施設を全て駅前周辺地区に集約する必要はなく、見晴球場があることから、スポーツセンターや勤労者体育センターは現地に残すという方法もある。
- ・社会教育施設の他に、産業会館など現在老朽化している施設も一体的に整備することも考えられる。
- ・市役所の市民窓口機能も導入されれば便利である。
- ・JR跡地利用を前提としているので、廃線についての見通しは早めに示して欲しい。

6. 全体協議

(炭谷座長)

- ・各グループの意見において、駅前周辺地区を前提とするという意見が多かったように考える。このため、当検討会議としては、駅前周辺地区の立地を前提に検討を進めていきたいがどうか。
- ・なお、駅前周辺地区以外の適地が具体的に提案された場合は、当検討会議としても議論をしていきたい。

(〇〇委員)

- ・今後の進め方としては、整備する理由、規模、立地場所についての根拠を明確にする必要がある。また、それを委員のみで議論するのではなく、市民の声を聴いて取りまとめを行って欲しい。市は広聴活動をしっかり行って欲しい。
- ・他の候補地検討については、市では未利用地を中心としているが、未利用地とその周辺民有地の活用なども視野に入れて選定すべきでないか。その上でメリット、デメリットを整理し、現地を確認して判断するべきではないか。まちづくりへの有効性から判断すべきであり、駅周辺地区が空くからという視点で判断すべきではない。
例えば、見晴公園や留萌振興局向かい側の広路の活用も検討してみてもどうか。
- ・本検討会議の議題から外れるが、道の駅の遊戯施設について、設置理由、ランニングコース、想定利用者数、管理運営者などは市民につまびらかにするべきだ。旧留萌高校の活用についても、企業誘致の可能性もあることから選択肢を狭めずに検討して欲しい。

(炭谷座長)

- ・本検討会議では、現時点で駅前周辺地区を候補地とするが、市民ワークショップや団体アンケートなどにおいて、有効な提案がなされた場合には再検討を行うこととしたい。

7. その他

－特になし。

8. 閉会